



発行：小網代ヨットクラブ
〒238-0225
神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18
Tel 080-9571-4663
編集：広報委員会
編集長：里吉美恵子

小網代通信

2018年 11月号 VOL-245

今月の内容

| | | |
|-------------------------|-----------------|---------|
| ・連絡事項 | 編集委員 | 1ページ |
| ・「小網代ヨットクラブ所属サンゴからのご挨拶」 | 藤原理恵子 (サンゴ) | 2ページ |
| ・「ヨットくうめぼし」の航海説明」 | 大谷 正彦 (KELONIA) | 3ページ |
| ・「地中海クルージングレポート」 | 横山 孝 (KELONIA) | 4～6 ページ |

連絡事項 (編集委員)

1. < 第一回KYCタウンパーティ 開催します!! >

初のタウンパーティを開催いたします。東京・代官山の夜、美味しいお食事と音楽が快い空間の中で1年の思い出や来る年への抱負やクルージング計画など、ゆっくり語り合ひましょう。お一人での参加でもあなたのお席はありますので、是非ご参加ください。

立食形式ですが、椅子席をご用意しています。ビール・ワインはフリー、お酒の持ち込みも OK です。

- ・日時 : 2018年12月4日 (火) 19:00～21:00 開場 18:30
- ・会場 : 代官山 ヒルサイドテラス バンケットホール
渋谷区猿楽町 29-18 ヒルサイドテラス C
- ・会費 : メンバー・ゲスト 8,000円 ファミリー・学生 6,500円

<申し込み方法> 各艇人数と名前をまとめて申し込んでください。会費は、事前振り込みです。

申し込み・問い合わせ : office@koaziroyc.jp 「KYCタウンパーティ」名で。

振り込み締め切り : 11月26日(月)

振込先 : みずほ銀行 銀座支店 (口座番号) 1624922 (口座名)エムアンドエム

2. < 第56回 小網代カップレース (大島回航) 無事終了 >

11月3日10時30分、やや強い北風の中を13艇がスタート、風は落ちてきましたがファーストホーム艇“Lady Kanon6”(シーボニア)は所要時間11時間31分、22時01分のフィニッシュでした。KYCからの2艇は、残念ながら上位に着くことができませんでしたが、最終艇となった“くろしお”も、翌4日午前1時46分にフィニッシュ、早い展開のレースとなり、レース後の“おでん”サービスも余裕で楽しめました。コミッティ、スタッフの皆様、大変お疲れ様でした。



 【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会11月19日(月)18:30～21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

「小網代ヨットクラブ所属サンゴからのご挨拶」

サンゴ代表 藤原 理恵子

小網代ヨットクラブの皆様には大変お世話になりましたが、このたび、サンゴ共同オーナーでした藤原 博が亡くなりました。

遅くなりましたが、改めて生前お世話になりました皆様にお礼とお別れのご挨拶をさせていただきます。

難病パーキンソン発病から11年、今年4月に闘病から解放されて76歳で天に召されました。

ヨットクラブの皆様には23歳から53年間お付き合い頂き、10年位前には短期間ではありましたが、ハーバー整備委員の役を仰せつかり、アンカー整備作業に張りきっていました。しかし病の進みも早く、充分なことができないうちに、次の方に引き継いで頂きました。



ハーバー整備委員の頃

元気な頃の小網代の懐かしい思い出は量り知れず、その中で私の知るのはほんの一部ですが、忘れられない一つのエピソードをお伝えします。

昔はよく第3日曜の小網代レースに出ていましたが平成4年8月16日のレース中のことです。台風が通過後の波もなく微風の中、コース最後の釜根ブイを、毎度のことながら最後に回ったサンゴに3~4階建てのビルのような巨大なうねりが横からというより真上から襲って来たのです。30フィートのピーターソンのサンゴも真横となりメンセールがピツリと海面に張り付きしばらく揺れているのを、艇長は舵を握りしめ、それぞれはライフラインに必死につかまってこらえました。数秒後、ザザザーと言うものすごい波の音と共に艇は起き上がり、体勢を整えましたが、1人いません。全員慌てて、浮き輪の準備後、落水者に近づこうとしましたが、また、第2波がやってきてうまくいきません。すると、なんと、サンゴにレースの後続艇がいたのです。(もしその艇が覚えていたら教えて下さい) すぐにレース放棄、救助して下さり本当に助かりました。運が良かったと言うしかないほど危険なことでした。

その後は病魔に襲われるまで、KYCの行事を大変楽しみにしておりました。夏祭、子供セーリング、草刈り、クラブハウス新築等々、サンゴと共に小網代で過ごした人生はきっと満足できたものと信じています。

今年平成30年7月には小網代湾ロブイの辺りで散骨供養をすることもできましたので故人がこれからも共に小網代にいられる思いを深くし、長いことお付き合い頂いた小網代ヨットクラブの皆様にお礼を申し上げさせていただきます。

サンゴは残された者で今しばらく続けて行く予定ですので、藤原 博の思い出と共に、今後ともよろしくお願いいたします。

平成30年11月

上述の平成4年8月のKFRの記録を調べた結果、下記の内容が判りました。

編集子

<レース報告書より> (アルファ 伊藤彰男氏の KFR 記録保管から抽出)

1992年8月16日 コースE11哩 参加艇 19艇 リタイア3艇 天気 晴れ、SSW~SW 5kt~10kt

<レースコメント> (原文のまま)

風は弱かったが、台風11号が南海上にありうねりが高かった。12:00頃 SUNGO が釜根回航後、釜根の北100m位の所で、高波に巻き込まれ横転し、1名が落水した。これを見た付近の2艇が救助に向かい、「たかとり」が落水者を救助し、事なきを得た。今回の落水事故は当事者と周囲の適切な判断で大事にならず済みました。直ちにレースを中断して救助に向かった「たかとり」「MISTRAL」には感謝します。当日は穏やかだったため、お客さんや子供にハーネス、ライフジャケットも付けずに乗せていた艇もありましたが、もしこれらの艇があの高波に遭っていたらどうなっていたのでしょうか。この事故を機にもう一度自分の艇の安全について見直して頂きたいと思います。(大谷)

ヨット <うめぼし>の航海 説明

KELONIA 大谷 正彦

<ケロニア>の横山 孝氏が増田 潔氏のヨット<うめぼし>に同乗し、「地中海クルージング」を楽しんできた。そのレポートが「小網代通信」に掲載されることになったが、ご存知ない方もおられると思い、ここで増田氏とヨット<うめぼし>について、紹介を兼ねて説明させていただきます。

増田 潔氏は、大学ヨット部で活動し、F社に入り同社ヨット部の小型艇(シーホース級)で活躍されました。シーホース級全日本選手権で優勝した実績もあります。

F社を定年退職後、<ケロニア>に所属しながら外洋ヨットの経験を積み、一方シングルハンドによる遠洋航海の夢を追い続け、2014 年に中古の木造ヨット<うめぼし>(艇種: WOODY82 28feet)を足立ヨット造船岡山工場から購入し、操船訓練を経た後、シングルハンドで外洋に船出しました。



8/14 バージ交換する増田オーナー(右)
ナポリ近郊のトレデルグレコにて

2014年8月 博多湾をスタートして沖縄まで(冬置)

2015年 沖縄 ~ タイ(冬置)

2016年 タイ ~ インド洋 ~ 南アフリカ ~ 西アフリカ沿岸を北上 ~ カーボウェルデ(冬置)

2017年 カーボウェルデ ~ カナリア諸島 ~ カディス ~ ジブラルタル海峡 ~ 地中海

地中海の港々、島々をめぐり ~ マルマリス(冬置)

2018年 マルマリス ~ 横山氏同乗の今回の航海(ナポリまで)

ナポリで横山氏下船後、<うめぼし>は、シングルハンドでスペインのアルメリマルまで航海した。

来年春までアルメリマルに艇を預ける

ことにして、今年の航海を終えた。

更に2019年は、地中海を出て大西洋を横断しカリブ海を目指す予定。



6/15 サラミスで上架中



8/6 ナポリ湾にて
横山とパウロ

右の写真は<うめぼし> 2 態

下記の航海ブログより

<うめぼし>航海のブログは、下記で読むことができます。

うめぼし航海 fujitsuyacht.cocolog-nifty.com/blog/

余談ですが、当初、増田氏は<うめぼし>の日本での係泊地として小網代湾を希望していました。その頃、小網代の<アフロディーテ>のオーナーが健康上の理由からヨットから身を引きたい希望があったので、増田氏が同艇の共同オーナーとなり、同オーナー引退後同艇の代表者になりました。いずれは<うめぼし>に艇更新する予定でした。ところが、増田氏の<うめぼし>での航海が順調で、長年にわたることになったため、小網代湾に長期の艇なし状態で泊地を保有することが困難になり、艇置きに近い希望があった友人と共同オーナーとなり、代表者を交代した経緯があります。

<アフロディーテ>の元(初代)のオーナーは引継ぎの後、半年ほどで亡くなられたので、上記引継ぎは泊地の温存に役立つものと思っています。

2018年10月30日記

地中海クルージングレポート

KELONIA 横山 孝

経由国：トルコ ⇒ ギリシャ ⇒ モンテネグロ ⇒ クロアチア ⇒ イタリア

航海距離：2,400 海里(4,445Km.)

航海月日：2018年4月19日～2018年8月15日（約4か月）

艇名：うめぼし(28ft.)

乗員：増田 潔(オーナー)、横山 孝(KELONIA)

ヨット<うめぼし>は2017年から2018年の冬をトルコのマルマリスで越した。4月19日に我々はマルマリスに入り出港準備に取り掛かった。私は結果的にマルマリスからナポリまで乗船することになった(シェンゲン条約で90日を超えてEUに滞在できないため。EU滞在日数は合計88日。トルコ、モンテネグロ、クロアチアは加算されず計算外)。

エーゲ海は夏によく北の強風メルテミ(Meltemi)が吹き、トルコが低圧部となり、高圧部のヨーロッパ大陸から、北の強風がエーゲ海を吹き抜ける傾向がある。メルテミが吹き始める前にイオニア海/アドリア海方面に出てしまう予定だ。この時期のエーゲ海は静かで、クリアな空から強い陽光が降り注ぎ、海は紺碧に輝いている。

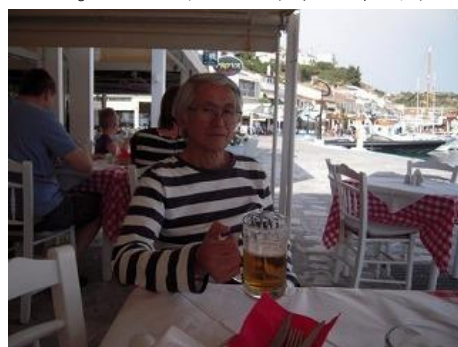


左:横山 右:増田オーナー
トルコギールにて



ヨット<うめぼし> サモス島ピタゴリオ港

4/24に出港し、樹木の少ない白亜の岩山や断崖の陸地と島々を見て西進した。海に流入する大地の養分が少なく、プランクトンも魚影も海鳥も少ない海は、それゆえあくまでも紺碧に澄みきっている。夕日に白亜の岩山が紅く染まり、トルコ南西端を西進するとワインカラードシーが暮れなずみ、最初の寄港地クニドスに入港した。ここはローマの遺跡の小湾で、棧



サモス島ピタゴリオ港のテラス席にて

橋1本だけのレストラン マリーナの他は何も無い。棧橋に他の船は無く、まわりを取り囲むローマの遺跡の列柱、円形劇場、神殿は神秘的に静まりかえっている。レストラン マリーナのテラスで白身魚のグリエ、肉料理と、辛口ワインを飲んだ。

4/30にギリシャに入国し、ハーバーを含む街全体が世界遺産のサモス島のピタゴリオ港に舫いを取った。弓形の岸壁に世界各国のヨットが舫い、各国の国旗がスターンにひるがえっている。岸壁はレストラン、カフェやバーに囲まれ、みな快適なテラス席と日よけを店の前に出し、ヨットを眺めながらビールやワインを楽しむヨット乗りがたむろしている。



海に見えるレストランのテラス
サントリーニ島

5/6にサントリーニ島に到着し3日間滞在した。白亜の建物と、迷路のような小道と石段が家々の下をくぐったり、海の見える断崖の上に出たりして、あちこちに眺めの良いテラス席がある山上都市の風景は、エーゲ海の他の島々でも見られるが、サントリーニの絶壁の上からの眺めは格別だ。

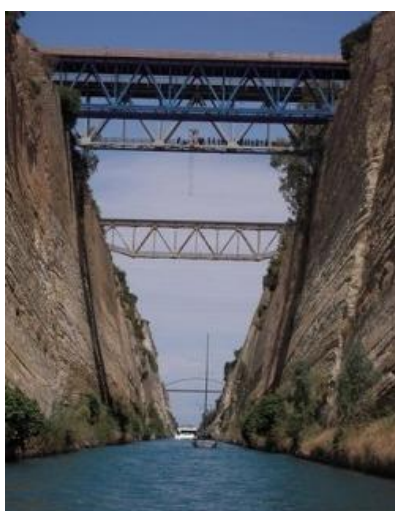
エーゲ海では14の島々を巡り、多くの世界遺産のギリシャの神殿、教会や修道院を見た。

増田オーナーがサラミスから一時帰国した間、私は以後の航海計画をグreek ウォーターズ パイロット及びアドリアン ウォーターズ パイロット等を読み込んで、ギリシャ、モンテネグロ、クロアチア、イタリアの各寄港地と各マイル数の計画をたてた。当初はイタリアのバーリーまでだったが、その後バーリーからシチリア、アマルフィ、ナポリまでの計画もたてた。



くうめぼし>のcockpitにて
後ろはサントリーニ島

6/17にサラミスを出港して、高さ80m、巾23mの大地を切り裂いたようなコリントス運河を経て、コリントス湾に入り、コリントスの遺跡を見て、イオニア海へと西進した。



コリントス運河通行中

6/19ハーバーで会うヨット乗り達から、イオニア海に出たら天候の急変に気を付けろと言われていたが、コリントス湾を出てイオニア海に入ったとたん、10m余りのブローに見舞われた。

6/24にギリシャのコルフ島を出国し、アドリア海に入りアルバニア沖を通過して、モンテネグロのブドヴァまで177海里のオーバーナイト航海をした。南北に長いアドリア海は、北風が吹き抜ける時は荒れるようで、15m程の北風のなか2ポイントリーフの機帆走で北上し、36時間かけてブドヴァに着いた。ブドヴァは城壁に囲まれた城塞都市で、旧市街は石作りの建築、教会、城塞と、細い石畳の道が迷路のように続き、歩いているだけで楽しい。ヴェネツィアやオーストリアなどの西欧の影響が強く、自然の風合の石作りの建築と石畳、レストランのテラスではウイナーシュニツェルが名物料理のように出てくる。約1,000海里ほど北西に進んだ結果、快適な涼しさになりほっとした。

6/28外海を離れフィヨルドの入組んだ水路を15海里ほど中に入った。高さ1,000m程の岩山にかこまれた狭い水路に、水面ギリギリの小さい教会の島が2つある、その奥の城塞都市コトルに舫いを取った。ここは今回の航海で白眉の寄港地で、城塞都市、教会、重厚でしゃれたレストラン、カフェやバーがあり、細い石畳の迷路のような街を探索し、快適な涼しさを楽しんだ。朝市で美味しい生ハム、ラズベリー、サクランボ、チーズ、ポルチーニ茸をゲットした。街の後ろは岩山で、城壁は高さ300m程まで続き、そこから見下ろすコトルの街と、フィヨルドの絶景は、筆舌に尽くしがたいものがある。



フィヨルドとコトルの街を俯瞰する城壁にて

6/30アドリア海の真珠と言われる、クロアチアのドゥブロヴニクの城塞都市を2日かけて観光し、城壁、教会やハーバーを巡り、旧港に面したレストランで、ヨーロッパ原産種の丸い貝殻の生牡蠣を白ワインでいただいた。(以後のコルチュラ、フバル、スプリット、トゥロギール、シベニック等のクロアチアの城塞都市は皆美しく、必見の素晴らしい城塞都市である。)



「アドリア海の真珠、ドゥブロヴニク

7/10 シベニックから内陸部へ 8.5 海里ほど狭い水路を入ったスクラーディンは、湖から大小数十の滝が落ちる絶景が見られ、ビル ゲイツも毎年来るとか。ここは緯度では札幌より北の北緯 43 度 49 分、トルコから 1,263 海里北西に航海したことになり、今回の最北地点となった。

7/13 アドリア海を南下して、オーバーナイトでイタリアのアドリア海沿岸のマンフレドニアでイタリアに入国。その後バーリーからアルベロベッロやマテラを観光した。長靴の踵の先のレウカからイオニア海に入った。

7/28 シチリア島を時計回りに一周して、ティレニア海に入りパレルモに入港。コルレオーネ村に近く、マフィアの雰囲気漂うようなパレルモの街を見物。すれ違うモーターボートのスキッパーの男性が、挨拶かわりに「アル カポネー！」と叫び、横に乗せた金髪の美女がほほ笑んだ。

8/1 世界遺産エオリエ火山列島のリパリ島を 15 時に出港し、ストロンボリ島で夕闇のなかで噴火する火山と吹き上がる溶岩を艇から見た後、オーバーナイトでアマルフィに向った。

8/3~4 にアマルフィのデウオーモや石畳の道を探検し、ラヴェッロの崖の上からの海の絶景をカフェから眺め、ポジターノを観光し、キャビンで名産のレモンチェッコを空けた。

8/6 カプリ島経由でソレントに入り、イタリア人のパウロと知り合い。翌日彼の案内でナポリ湾一周クルーズをしてプローチダ島コリッチェラのパステルカラーの村等を見て、ナポリ近郊のトレデルグレコの彼のヨットの近くに格安で停泊。

以後 **8/15** までここに滞在し、ポンペイ、青の洞窟、ナポリ等を観光した。



<うめぼし>航跡図(横山乗艇区間) (増田オーナー提供)

【地中海の感想】

地中海はヨットの数は日本の比ではなく、どこに行っても余りにも多くのクルーザーがヨットハーバーや湾内に停泊しており、カップルでクルージングを楽しんでいる人々も多い。100ft 超えのメガヨットの数も多い。街の表玄関が海に面していて、多くのクルーザーが 1 等地に停泊しているのは、日本では余り見られない光景と言える。

漁船とヨットとの棲み分けもスムーズに行われており、羨むべき環境が整っている。ミノア、ミケーネ、フェニキア、古代ギリシャ、ローマ、ビザンティン、ヴェネツィア、ノルマン、オスマントルコ等の艦船が覇権を競った海洋文明の歴史と、人々に根づいた海洋文化の重みを痛感した。

これからの<うめぼし>の航海の安全を祈ります。

完